

見えぬけれどもあるんだよ 「スクリーンコード」で世界をつなぐ

●株式会社 アポロジャパン

代表取締役
岸上 郁子
Kishigami Ikuko

※童謡詩人 金子みすゞさんの「星とたんぼぼ」の詩の一節です。



▲国旗をタッチしてから、ページをタッチすると、その国の言葉でしゃべりだす「音声ペン」。大人が使っても楽しい。



▲母や叔母から受け継いだ着物を着ることが好きで、日頃からよく着ている。着物は究極のSDGs。

Company profile

紙に、「見えない」コードを印刷して、情報を伝える技術で特許を多数取得。経産省の「ものづくり補助金」で専用読取機器の音声ペンとスマホのアプリを開発。タッチすると本がしゃべり出す「音声ペン」は読むのが苦手だったり、言語の違う子どもたちでも楽しむことができる。

夫が開発した技術を社長として世に提案する

夫である澤倉さんは、技術者である。オンリーワンの特許技術「スクリーンコード」を開発。目に見えない、だから「コピーできない」コードとして、セキュリティ分野を中心に活用がすむ。

そして、妻で社長ある郁子さんは、この技術を世に出す役を担う。これまでなかった技術なので、話を聞けば「すごい技術」と言われるものの、これまでの道のりは長かった。大学教授と連携し、「音声ペン」として新しい活用の道が開かれた。

小説が好きで文学部へ。外国に憧れ台湾で日本語教師として働きながら、中国語を学んだ。その縁で、夫に出会い、今の仕事をすることに。

技術の活用をするまでに、試行錯誤を繰り返してきた。大事なのは現場の意見に耳を傾けることだと実感。次第に「音声ペン」を喜ぶ方の声を聞くことが増え、設立10年目にして会社のコンセプトが固まった。それは「世界を変える、見えないコード」。言語や文化、障害などを技術で超えたいと考える。そして今、みすゞさんの詩に惹かれ、長門にオフィスを借りている。

みすゞさんの詩を多言語対応の音声絵本に

郁子さんは、自分たちの技術を、より住みよい世界の実現に使いたいと考えている。「スクリーンコード」技術はスマホに専用アプリを入れて読み取れることもできる。

みすゞさんの詩に触れ、「生きとしいけるもの」への深い愛情に強く惹かれ、この世界観を自社技術でより世界に発信したいと考えている。例えば、スマホを使って同じページから多言語へリンクができる音声絵本や視覚障害者や子どもたちにも音で伝えるSDGsのマップなど。長門市と一緒にアイデアを育てたい。

our new challenge

自分の目と感覚でチャンスをつかむ

北九州を拠点とするのに加えて「長門」にも出てみようと思ったのは、実際に来てみて、考えていた以上に、この地を気に入ったからという。市役所、SNOWDRIPCOFFEEや長門市しごとセンターはじめ、いろんな人がwelcomeと言ってくれていることがパワーになります。



金子みすゞさんが好きになり、すでに何回も記念館を訪れているそう。